

令和4年度 白砂まちづくりセンターの主な取組

事業名

わくわく白砂！収穫祭

P

●事業実施に至った背景、目的

地域には梅や西条柿などの特産品があるが、梅の存在を知らなかったり、柿園に入ったことがない子供もたくさんいる。

地域の子供が「地域を知る・学ぶ事業」として、春は吉浦の梅、秋は東平原の西条柿について学ぶため、収穫体験を企画・実施した。

地域住民同士の交流、親子の触れ合い、郷土への愛着形成を目的としている。

●事業を実施するまでの過程(関係機関との打ち合わせ等)

春：吉浦集落長、まちづくり会長と打ち合わせ(5月、6月) 6月11日(土)実施

秋：東平原上オーナー柿園のオーナー樹 2本申し込み(6月)

東平原上営農組合長と打ち合わせ(10月) 10月30日(日)実施

センターだより、チラシなどで広報し、参加者を募集する。地域交流、親子活動の一環として
いるため、小学校にもチラシで案内を出した。(5月末、9月末)

D

●事業の概要

- ・梅狩り…なぜ吉浦集落で梅を植えたのかなど、地域の取組の話を集落長から話してもらい、梅狩りを楽しむ。採った梅は持ち帰り、地域の方作成のレシピを見ながら自宅で仕込む。
- ・西条柿…紙芝居「西条柿奮闘記」を読み聞かせ、白砂での西条柿の成り立ちを知り、営農組合柿園にて収穫を楽しむ。持ち帰り分の収穫後は、センター分の収穫の手伝いをしてもらう。

C

●事業実施後の振り返り

- ・どちらの事業も収穫体験前に地域のボランティアからの説明があったことで、参加した保護者から「どうしてここに柿があるのか初めて知りました」との声も聞かれ、改めて親子で郷土の事を知る機会となった。
- ・外での事業となるため、雨天の場合の対応を前もってしっかり協議することが必要。

A

●令和5年度以降の方向性

- ・地域内外からの参加もあり、喜ばれたため、今後も継続していきたい。
- ・センター主導でなく、集落住民など関わってくれる地域の人をもっと増やし、地域が主体的に行う事業となっていくよう、まちづくりセンターとして支援していく。



←6月11日(土)
梅狩りとレシピ本

10月30日(日)→
西条柿ミニミニ収穫祭

